

ずっと気になっていたジェラート店『Wavy Hill's(ウェイビーヒルズ)』へ行ってきました。

場所は小樽市銭函で、道央新道337号線沿いにあります。この道を通る度にいつも立ち寄りずにはおりましたが、ちょうど何も予定の無い休日があったので、暇を持て余している家族を連れて足を運んでみました。

当日は生憎の空模様ということもあり、並ぶことなく直ぐにおしゃれな店内へ。容器はカップとオリジナルワッフルコーンの2種類がありました。1つ乗せのシングルから4つ乗せのクアドラブルまであるサイズの中から選び、最後は日替わりのメニューから好きなフレーバーを選択。

他にもコーヒーやホットサンドなど美味しそうなメニューもあります。オンラインショップでもジェラートの詰め合わせやレアチーズケーキが販売されていますので、皆様も北海道産生乳100%をご堪能してみたいはいかがでしょうか。

札幌営業所(所長:清水 壮次郎)

KOYORAD

世界の拠点から
-From the base in the world-



～KCS BBQの日～

先日、KCSのメンバーでBBQをしました。

きっかけはアメリカの祝日『レイバーデー(LaborDay)』。9月の第1月曜日に祝われる日で、普段一生懸命働いているみんなに感謝を込めて、そして交流の場を持つために企画されました。

私にとっては入社して初めてのBBQ。普段から江尻会長や拓馬社長とはお話しする機会がありますが、他のメンバーにとっては直接コミュニケーションが取れる良いきっかけになったと思います。みんなとワイワイ盛り上がりながら、美味しいお肉を食べて、笑い声が絶えない楽しい一日でした。そして、やっぱりアメリカといえばBBQ！とにかく肉の味が美味しいんです。今回は普段のホットドッグやハンバーガーではなく、ステーキやラム肉がメイン。贅沢なお肉をみんなで楽しめて大満足でした。BBQって、ただ食べるだけじゃなくて、『香りから楽しめる』のが最高なんですよ。焼いているときに立ちのぼるあの香り！あの匂いを嗅ぐともう待ちきれなくて、おなかがぐるぐる…食べる前から幸せな気分になります。また次のBBQの日が待ち遠しいです！

こうして仕事の場を離れて交流できる時間って、やっぱり大切ですね。最高の時間でした！



KCS(アメリカ)(GM:Ayano Donnelly)

今年の夏は非常に暑いですね。名古屋も40℃に到達した日があるなど、これまで以上に暑かったです。

さて、私の場合、夏の花と言えばひまわりが真っ先に思いつきます。関西にいた頃もひまわりを見に出かけたものでした。愛知県にもひまわりで有名なスポットがあり、秦基博さんの名曲『ひまわりの約束』のPVを撮影した場所が知多半島にあります。知多半島道路を南下して豊丘ICで降りると数分で着く観光農園花ひろば。ここはひまわりを筆頭に松葉ボタンやコキアなど、フォトスポットも多数あります。ひまわりの方は2万本ずつつけて植えられ、6月から見るができます。軽トラの荷台は乗れるようになっており、上から見るひまわりは圧巻です。

お土産に一人2本ずつひまわりを切って持ち帰る事も出来ます。コキアも整列して植えられていて見ごたえあり。秋に真っ赤になる様子も再度見てみたいと思いました。

皆様いかがお過ごしでしょうか。今回は、東京都千代田区にあるニコライ堂を紹介いたします。

御茶ノ水駅からすぐの所にあるこのニコライ堂、正式名称は『東京復活大聖堂』といい、日本に正教会の教を伝えたロシア人修道司祭、聖ニコライに由来しています。建築面積はおおよそ800㎡で、高さ35mの緑青に覆われたドーム屋根が特徴の日本で最大級のビザンティン様式の教会となっています(緑青の屋根がビル街の中で、遠くからでも目立ちます…)。

1891年に竣工しましたが、関東大震災で被害を受け、現在の建物は1927～1929年にかけて修復を受けた建物になっています。また、戦争での空襲被害は免れたようで、1962年に国の重要文化財に指定されました。

平日の午後に拝観を受け付けており、未信徒は啓蒙所という聖堂内の一部まで見学可能となっています。

拝観できる時間帯は限られているようですが、訪れてみてはいかがでしょうか。

中日本営業所(部長:藤谷 弘行)

東日本営業本部(部長:高橋 鉄夫)

今回は、福岡の地元の方々に長年愛され続けている名店『びっくり亭』をご紹介します。

看板メニューの鉄板焼肉は、博多の中でも名物中の名物！ど定番の定食メニューです。熱々の鉄板の上でもくもくと湯気を立てる豚肉とキャベツは、同店特製の辛味噌が加わることで、なんとも言えない辛すぎない辛さとコクのある深い味わいとなります。これによってオリジナル鉄板焼肉が生まれます。

また、鉄板を傾けて油を寄せ、お肉とキャベツに辛味噌と混ぜるという同店独特のスタイルは、博多ではおなじみです。そっくり店も出てくるほどで、想像したただけでお腹がなりそうです。仕事終わりや、休日に家族や友人と思いきり楽しんだ後に食べるびっくり亭の鉄板焼肉は、格別でほんとにクセになりますよ！

元気が出ないなあなんてときは、迷わず『びっくり亭』へ行って欲しいです！きっと、その一口があなたを幸せにしてくれます。ほんとにおすすめです！！

西日本営業所(部長:木下 敦裕)

9月の3日間の連休に、久しぶりに子供たち、孫たちと一緒にバンドンに旅行に行きました。急な旅行でしたが、みんなのスケジュールを確認するとちょうど問題なく、連休の3日前にホテルの予約をしました。

オンラインで予約をしようとしたら、なんと価格は通常よりも1.5~2倍ぐらい高く、少し悩みました。しかし検索中、ラッキーなことに五つ星、さらにバンドン市内、価格も安いホテルを見つけ、すぐ予約を入れました。行く前に家内はそのホテルに泊まったことのある人々のコメントを確認。ホテルは古め、周りの雰囲気は怖い感じ、夜中にたまに変な声が聞こえるなどのコメントを読んで少し心配していました。子供たち、孫たちにはその怖いコメントのことは何も言わず、車3台で泊まりに行きました。

自分の部屋が一番上の孫と一緒にでした。一泊目は少し変な感じがしていたけど何も起きなかったです。次の日いろんな所へ遊びに行って、夜にはあまりにも疲れていたで自分は早く寝て、家内と孫は寝る前にベッドでいろいろ話をしていました。途中で孫が「お婆さん、あの人はどうやって部屋に入ったの？部屋のドアには鍵が掛かっていたのに」と言い、家内は「えええ…誰もいないよ」と孫に答え、とても怖い雰囲気だったそうです。

帰っているときに家内からその話を聞き、もう二度とあのホテルには泊まらなと心の中で決めました。次回からは気を付けてホテルを選びます。

KJI(インドネシア)(工場長:S.Akhyar)

～万里の長城も走れちゃう～

こしばらくマラソンネタを書いていたんですが、中国でも8月、9月はちょうど秋から冬にかけての大会の申し込み真っ盛りでした。中国でもマラソン大会は急激に増加しており、今や大ブーム。全国で1,000をはるかに上回る数の大会が開催されています。私も現在10月、11月の大会にエントリーし、さらに中国最大規模の上海マラソンの抽選にも応募しました。蘇州周辺にもマラソン大会は数多くありますが、昨今のマラソンブームでどれも抽選方式です。特に上海マラソンは人気が高く、私もここ4、5年はずっと落選続きです。

中国全土ではユニークな大会もたくさん存在します。北京マラソンはあの天安門広場からのスタートです。四川省成都の成都マラソン、通称パンダマラソンは多くのランナーがパンダの着ぐるみで走り、完走者はパンダデザインのメダルがもらえます。万里の長城を走れちゃう大会もあります。あの城壁を何キロも走るのでアップダウンの激しいタフなコースです。

どの大会も完走すると必ず記念メダルがもらえ、そのほかTシャツやタオル、協賛企業の試供品がどっさりもらえ、かなりお得です。

KHE(中国・蘇州)(総経理:山本 博史)

EV車は、運転に新たな次元をもたらしています。このタイプの車は、ドアノブやハンドル、大型モニターなどに、ハイテクを随所に搭載。まるで映画に出てくる未来的な車を運転しているかのような感覚です。政府からの補助金によって価格が抑えられることは言うまでもない。

シンガポールは小さな国ですが、価格補助やその他の利便性向上のための取り組みとともに、EV車の導入に向けて大きな一歩を踏み出しています。政府は、住宅団地やショッピングモール、公園などに多数の充電ポイントを設置しています。公共駐車場では優先駐車スペースも確保されています。そのため、駐車場にはEV車専用の緑の線が引かれています。駐車スペースが限られているシンガポールでは、このような特典は非常に魅力的です。EV車以外のドライバーは、すぐに罰金を科せられたくないので、あえてそのような場所に駐車しようとはしません。

しかし、EV車には、通常のガソリン車に比べてリセールバリューがはるかに低いという欠点があります。そのため、依然として多くの人がこの問題を懸念し、EV車の購入をためらっています。将来はEV車だけではないかもしれませんが、このタイプの車は消費者にとって選択肢であり続けるでしょう。

KIO(シンガポール)(E.Wong)

2025年9月4日、私はテレビでサッカーのオランダ対ポーランド戦を観ました。それはアメリカ、カナダ、メキシコで開催される2026年ワールドカップ予選でした。イングランド・プレミアリーグでは数多くのオランダ人選手がスターとして活躍しているので、興奮していました。しかし、この試合はそこまでのレベルを見せつけるものではありませんでした。前半、デンゼル・ダンフリースが素晴らしいヘディングシュートで得点したので、オランダが快勝するだろうと思いました。しかし、彼らはあまりにも多くのチャンスを逃してしまいました。終盤、ポーランドのマティ・キャッシュが得点し、試合は1-1で終了しました。私はがっかりしました。

9月7日、今度はカウナスでのリトアニア戦を観戦しました。最初は好調に見えました。メンフィス・デパイが開始11分で得点し、オランダの歴代最多得点選手となりました。クインテン・ティンバーも得点しましたが、その後リトアニアが2得点を挙げ、私を驚かせました。オランダの守備は非常に脆弱に見えました。幸運にも、デパイが後半に再び得点し、チームは3-2で勝利しました。

オランダには非常に優れた選手や才能豊かな選手が揃っていますが、ここ2試合では、ピッチ上でのコントロールやチームワークが十分ではありませんでした。時折、素晴らしいプレーが見られましたが、迷ったり、力不足に見えたりすることもありました。

今、最も重要なのはワールドカップ出場権を獲得することです。私としては、それほど難しいことではないと思っています。

KIO(オランダ)(Marvin de Laat)